



戊辰戦争編

西暦1862年～1872年
圭介30歳～40歳

日本の動き

- 1862年 洋書調所開設
- 1863年 薩英戦争
- 1864年 池田屋事件
- 1867年 大政奉還
- 1869年 戊辰戦争終結
- 1871年 廃藩置県

圭介の動き

- 1862年 洋書調所教授になる
- 1863年 後藤象二郎らに洋学を教える
- 1866年 江戸幕府に仕える
- 1868年 戊辰戦争に参戦する
- 1869年 皆を説得し降伏する
- 1872年 釈放され新政府に仕える

偉人の言葉・大鳥圭介評

黒田清隆: 他に代わりはない、かけがえのない人物だ。



黒田は江川塾で圭介の教え子でした。戊辰戦争では敵将となりましたが、降伏した圭介のために、頭を丸めて助命を懇願し、部下として頼りにしました。

桂小五郎: 死刑にすべきと思っていたが、日本のために生かしてよかった。



明治政府の中心であった桂は、幕府軍だった圭介は死刑にすべきと主張していました。しかし、釈放後の圭介の働きは日本の発展には必要だと認めていきました。

戊辰開戦



1867年、徳川慶喜により大政奉還が行われ、江戸幕府が終わりを迎え、明治政府が新たに生まれました。

圭介は新政府に仕えるを良しとせず、徹底抗戦を決めました。そして、圭介自身が作った伝習隊と共に、北へと向かいました。この後、新選組らも圭介たちに合流しました。

日光にやってきた圭介たちですが、徳川家康を祀る日光東照宮で戦争はできないと、自分が不利になろうとも別の土地へ陣を移しました。

旧幕府軍として圭介は陸軍大将となり、その配下に新選組の土方歳三が就きました。そして、新たな国を作ろうと北海道へ向かいました。

大鳥圭介と土方歳三は仲が良かったってホント?

仲が良かったかどうかは、直接のやり取りの記録が見当たらないため不明です。しかし、圭介のことを信頼していなければ、新選組「鬼の副長」といわれた土方がおとなしく圭介の下についていなかったでしょう。